



1. 狭隘部での施工 2. 桁の架設状況  
3. 周辺環境、維持管理に配慮した前背面分離型遮音壁  
4. 全7橋の桁架橋が完了した様子

横浜北線鉄道(JR,京急)交差部新設工事 概要

- 工 種 橋梁
- 発注者 首都高速道路(株)、横浜市、東日本旅客鉄道(株)
- 設計者 ジェイアール東日本コンサルタンツ・日本交通技術設計共同企業体
- 施工者 鹿島・前田・京急建設共同企業体
- 関係者 (株)横河ブリッジ、オリエンタル白石(株)、宮地エンジニアリング(株)、川田工業(株)、(株)ゼンテック
- 所在地 神奈川県横浜市
- 着工年月 2011年9月
- 竣工年月 2017年10月



詳細や他の写真などは  
左記のQRコードからWebページに  
アクセスしてご覧ください。

分な技術的な裏付けをもとに施工プロセスを改善し、第三者および施工者の安全確保と生産性向上、環境の維持を実現している点が高く評価され、日建連表彰土木賞に値するものと認められた。

日建連表彰 2020



第10回土木賞

# 横浜北線鉄道(JR、京急)交差部新設工事

## 受賞理由

本工事は、首都高速「横浜環状道路」の北東区間の市街化地域において、JR東日本線と京浜急行線、合わせて一〇線の線路と立体交差する延長三〇〇以上の跨線道路橋を建設する工事である。橋梁は最大支間長一〇五・六メートルの三、四径間連続鋼床版桁橋で、首都圏の重要路線の線路上空での曲線桁の送り出し架設や線路近接箇所でのケーソン基礎の施工など、きわめて難度の高い工事であり、施工中の鉄道輸送の安全確保のため、高度な技術力と厳密な管理が求められた。

桁は急曲線で長さ方向に幅が変化す不規則な形状をしており、前例のない送り出し架設となった。そのため、CIMによる事前施工シミュレーションの実施、新たな架設装置や管理・制御システムの開発、試験施工の実施など、万全の準備を行い、綿密な施工管理のもと、トラブルなく無事に短時間での架設を実現させた。

ケーソン基礎は、線路に近接した狭隘箇所での施工であったが、新たな補助工法の開発により不等沈下や急激な沈下を防いで鉄道の安全を確保するなど、難条件を克服して施工を完了させた。

また、本橋梁は市街化地域の線路上空に架設されるため、供用後の車両走行音対策や鉄道直上での維持管理に十分配慮した設計が行われ、施工中も様々な取組みにより環境影響の低減が図られた。

本プロジェクトでは、厳しい施工環境のなか、多様な関係者が計画段階から工事完了まで緊密に連携し、協働したことにより、過去に例を見ない技術的に高難度の工事を無事、かつ効率的に完成させた。十

装置や管理・制御システムの開発、試験施工の実施など、万全の準備を行い、綿密な施工管理のもと、トラブルなく無事に短時間での架設を実現させた。

ケーソン基礎は、線路に近接した狭隘箇所での施工であったが、新たな補助工法の開発により不等沈下や急激な沈下を防いで鉄道の安全を確保するなど、難条件を克服して施工を完了させた。

また、本橋梁は市街化地域の線路上空に架設されるため、供用後の車両走行音対策や鉄道直上での維持管理に十分配慮した設計が行われ、施工中も様々な取組みにより環境影響の低減が図られた。

本プロジェクトでは、厳しい施工環境のなか、多様な関係者が計画段階から工事完了まで緊密に連携し、協働したことにより、過去に例を見ない技術的に高難度の工事を無事、かつ効率的に完成させた。十

土木賞は、募集の前年末までに概ね竣工した土木分野のプロジェクト・構造物を対象に、事業企画、計画・設計、施工、及び維持管理などに関する総合評価により選考を行います。選考に当たり、特に、施工プロセスの視点(施工プロセスの改善、良質な社会資本の効率的創出、土木技術の発展・伝承など)を重視しています。